

令和6年4月15日



保護者様

新座市立第二中学校長

学習評価の在り方について（お知らせ）

学習評価は、進路に係る重要な資料として活用されることから、生徒のみならず保護者の方にとっても学校教育における関心事の一つであると認識しています。

他方、学習内容、指導方法は時代とともに変遷し、それに伴い評価方法も変化してきました。

そこで、学校教育における現在の学習評価の在り方を踏まえ、今後の対応を下記のとおりとしますのでご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

記

1 評価方法の変更点

今年度より「**定期テスト**」（中間、期末、学年末）は**実施せず**、単元テストの実施や授業ごとの評価を蓄積するポートフォリオによる評価に重点をシフトします。

2 変更の理由

平成元年度以降、学習評価の在り方は広く議論され、評価方法の見直し、学力の要素の規定、評価の観点の整理等が繰り返し行われてきた経緯があります。既に、中学校においては、定期テストによる評価の比重はかつてほど高いものではなくなっていますが、入試制度改革が進行する中にあることは、取りやめる判断には至りませんでした。

ところが、令和4年度から実施している高等学校の学習指導要領で学んでいる生徒が臨む令和6年度大学入試からは、中学校と同様に**学力の3要素を多面的・総合的に評価**する評価方法で行われることが確定的となりました。これで、小学校、中学校、高等学校、大学入試で評価の観点、方法が基本的には共通化されることになります。そのため、形骸化しつつあったペーパーテストで知識量を中心に測る定期テストの実施を見直すことにしました。

既に本校では、中間テストは実施しておらず、また、国語科においては、先行して期末テスト等も実施しておりませんでした。また、高校入試を含め、その評価方法に課題が生じることはありませんでした。

そうした試行の結果を踏まえるとともに、国全体で取り組む Society5.0 で求められる学習方法や評価の在り方にいち早くシフトした方が、将来的にも生徒にとって有

益で合理的であるとの判断に至り、定期テストの実施を取りやめることにしました。

3 今後の学習評価

学習評価については、これまでの取組を踏まえると信頼性が揺らぐことは想定されませんが、定期テストを一つの節目として取り組んできた生徒も多く、不安を感じる者もいると思われます。

そこで、単元テストを中心にパフォーマンステストや小テスト等も行い、評価の柱として位置づけ、安心感を抱けるようにしていきます。

また、スパイラルで教育課程が編成されている国語、社会、英語については、当面の間、評価の信頼性を担保する意味で、実力診断テストを実施します。

なお、授業ごとの評価を蓄積していく「ポートフォリオ」については、全国的にも評価の柱となりつつあることをご理解ください。一夜漬けによる暗記が評価の対象になりえない時代になってきています。

4 定期テストを実施しないことにより期待される効果

中学校で定期テストを見直す動きは全国的にも広がっており、単元テストの実施や発表、討論を重視することで、一夜漬け等の知識詰め込みから抜け出すことに即効性があるとの報告がなされています。学習者としての効果は次のとおりです。

(1) 早期解決の促進

- ・小テストや単元テストを通じて学習状況が早期にわかり、放課後や週末に復習することで大きな遅れを取らずに済む。
- ・生徒が自分の学習進度を把握し、積極的に学び直す姿勢が育まれる。

(2) 学習の習慣化

- ・定期テストの代わりに小テストや単元テストを定期的に行うことで、学習習慣が定着しやすくなる。
- ・生徒が自主的に学ぶ姿勢を養いやすくなる。

5 その他

詳細については、各学年の保護者会で管理職より説明します。